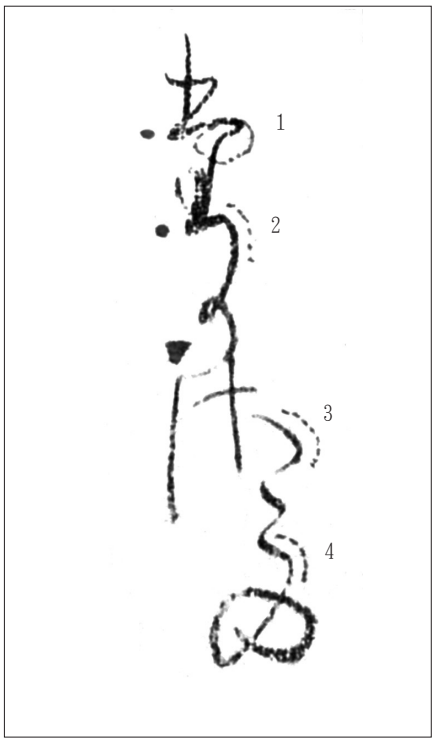
宮　絢子担当

臨　書　課　題

（十一月二十二日締切）

◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

寸松庵色紙



1、字句＝堂可佐（たかさ）この

2、形式＝半紙をたてに使い、中央に一行で臨書する。落款は、本文に添う大きさと落ち付く位置を考え「○○臨」と入れる。

3、概観＝寸松庵色紙を大きく臨書することで、貫之の息づかいや連綿の筆使いが理解できます。直線的な連綿（第一回）、ブレーキをかけながらじっくりと引く連綿（第二回）、構えを大きくして力を抜きながら運ぶ連綿（今回）、右回転のリズムを持った連綿、放ち書きに見えて筆脈が伝わる連綿など、連綿の仕方は変化に富んでいます。一枚の色紙の中に、様々な連綿が生きて、見て楽しく、臨書して発見の多い寸松庵色紙ではないでしょうか。

4、各字のポイント

堂…転折（・）ではきちんと止まり、少し筆圧をかけて、横画を書き始める。下へ向かうたて画に移る時、立ち止まる気持ちで。（1）

堂から**可**へ

「堂」の終筆から大きな右回転で連綿を始める。（2）一定の筆圧で「可」を書く。

可から**佐**へ

「可」の終筆は力を抜いて引き上げるが、鋒先は紙面から離さずに「佐」の一画目へ向かう。一画目の始筆は、鋒先を突くように置く。（▼）

佐から**こ**へ、**こ**から**の**へ

「佐」「こ」の終筆とも力を抜いて次の画へ向かうが、ゆったりとした右回転（3・4）で鋒先をつなげていく。「の」の終筆は次の行へ向かう。

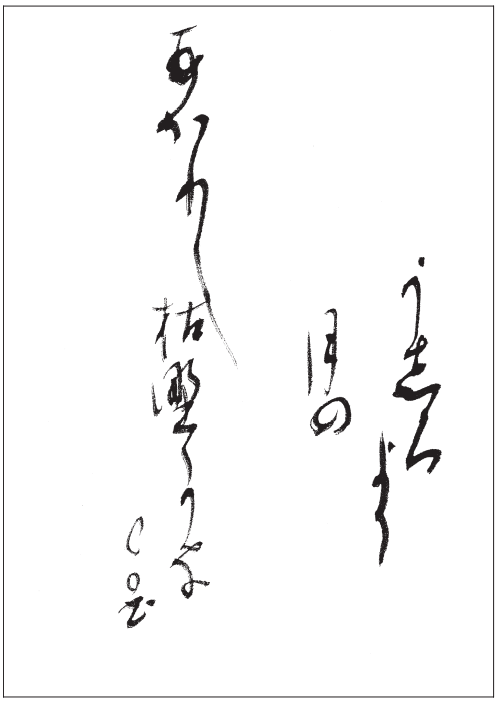
半　紙　課　題（予　告）

（十二月二十二日締切）

平岡華雪先生書　山色夕陽の時。（槐安国語）

訳…山色は夕陽の時が美しい。

平岡華雪先生書　後より月のあがりし枯野かな（文臺城）



一字書（十一月二十二日締切）

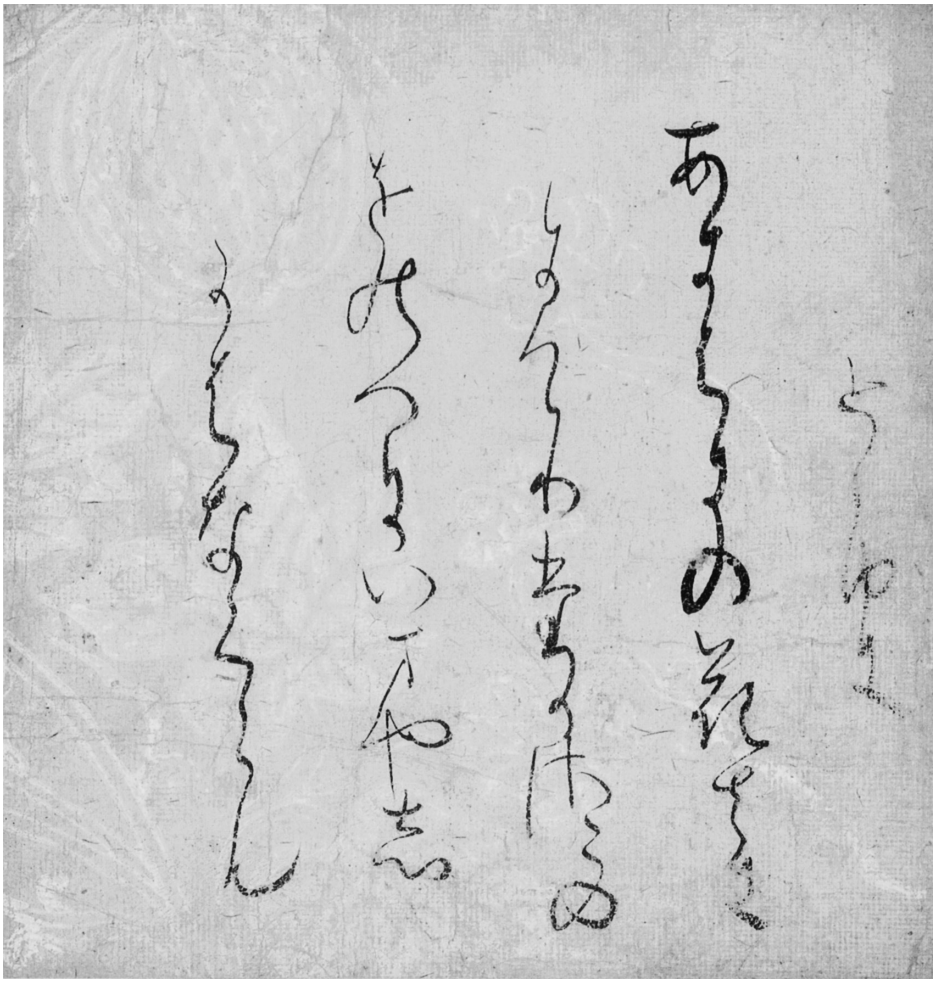
課題

動

(1)書体自由
(2)半紙タテ・ヨコ自由
(3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる
(4)出品料　四三〇円

創造力を働かせて表現を楽しんで下さい。多くの会員がチャレンジしています。

寸松庵色紙



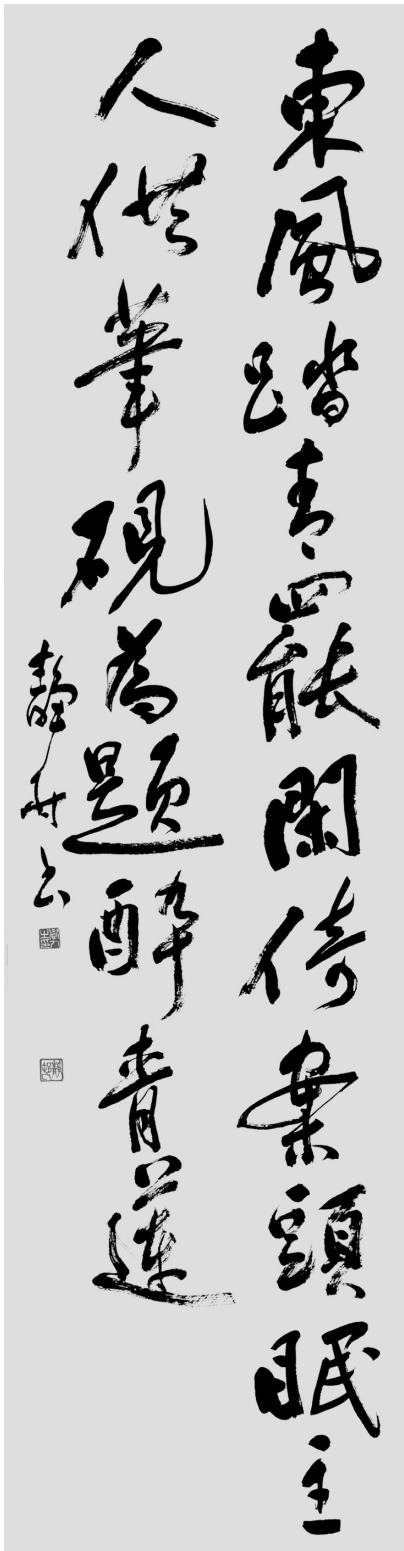
五島美術館蔵

あきはぎの花さきにけりたかさごのをのへにいまやしかはなくらん　としゆき

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご活用下さい。抜粋可。
随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

条幅部漢字課題参考　（十一月二十二日締切）

A



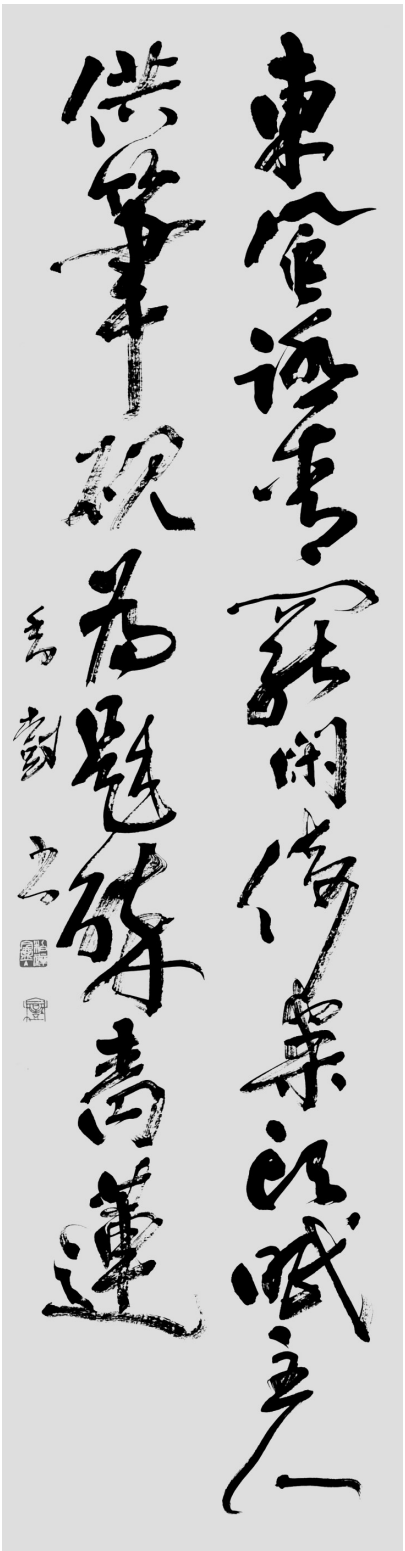
鈴木静村書

東風踏青罷　閑倚案頭眠　主人供筆硯　為題酔青蓮（良寛）

東風青を踏み罷み、閑かに案頭に倚って眠る。主人筆硯を供す、ために題す酔青蓮に。

墨継ぎと潤渇について　五言絶句20文字は右行11字、左行9字という一般的な字詰め構成。墨継ぎは三か所、右行は**閑**と**眠**左行は**硯**、以下5字と多めだが、全体として1～2字のズレは、許容当然です。初歩段階の人は、墨継ぎの〝効果性〟（ニジミ、多墨）をまず自己理解するよう努めてほしい。次に、漸次〝渇筆〟表現への理解も深めていくよう切望したい。意識的な取り組みと積極的な実践を期待したいと念じています。

B



高橋香樹主幹書

五言絶句二十字の課題を二行にて書す。文字の形は、正方形、長方形になりがちだが、この形を破ることに意を用う。文字も「**青　罷　筆　蓮**」を大きく、「**閑　頭　主　供　為**」を小字とする。また、行書と草書を十字づつに配分。連綿は三ヶ所と少ないが意連を意識。墨継ぎは「**頭**」と「**為**」。

訳…春風に吹かれてそぞろ歩きから戻って、しずかに机によりかかり居眠りしたところへ、この家の主人が筆と硯を持参して、李白の画像に賛をせよという。そこで主人のため、酔っぱらいの李白に対して、こんな詩を書きつけた。

予告（十二月二十二日締切）　**野石静排爲坐榻　溪茶深煮當飛觥（伍喬）**

◆**注意**
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を○で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条漢を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

条幅部かな課題参考　（十一月二十二日締切）

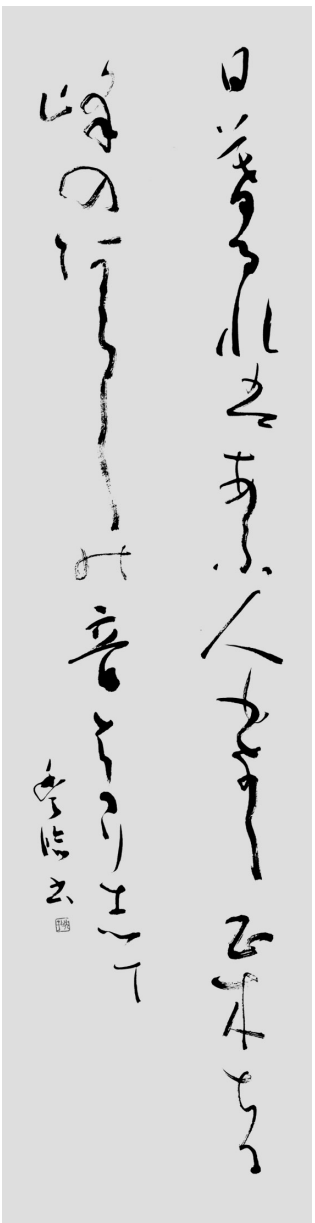
A

平岡華雪先生書

日暮るればあふ人もなしまさき散る峰の嵐のおとばかりして（新古今和歌集　俊頼朝臣）
日暮る連八あ婦人もなし正木遅留峰の阿らし能音は可利し亭

B

吉原豊臨先生書



日暮るれ盤あふ人も奈し正木ちる峰の阿らし能音者可り志て

歌と作者について

本歌は、「日も暮れぬ人も帰りぬ山里は峰の嵐の音ばかりして」（後拾遺・源頼実）。

作者俊頼朝臣は、従四位上木工権頭。堀河院歌壇の中で歌人となり『金葉集』を撰進し、「堀河百首」の企画に参画するなど、院政期歌壇の中心として活躍した。その歌風は清新かつ詩情豊かなもので、俊成に継承されてゆく。法名は能貪。歌論に『俊頼髄脳（俊秘抄）』歌集に『散木奇歌集』がある。

学び方

前回、漢字と仮名のいろいろな書き方を工夫することをお勧めしました。今回は、華雪先生のお手本に習った漢字・仮名の組み合わせとし、変体仮名などを変えてみました。華雪先生がよく書かれる変体仮名には、苦手なものもあるので私なりの書を書いてみました。

文字の大小、墨色、潤渇にも注意しながら練習し、たくさん書き込んで、作品を作りあげてください。

予告（十二月二十二日締切）　**嵐ふく三室の山のもみぢ葉は龍田の川のにしきなりけり（能因法師）**

◆注意
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

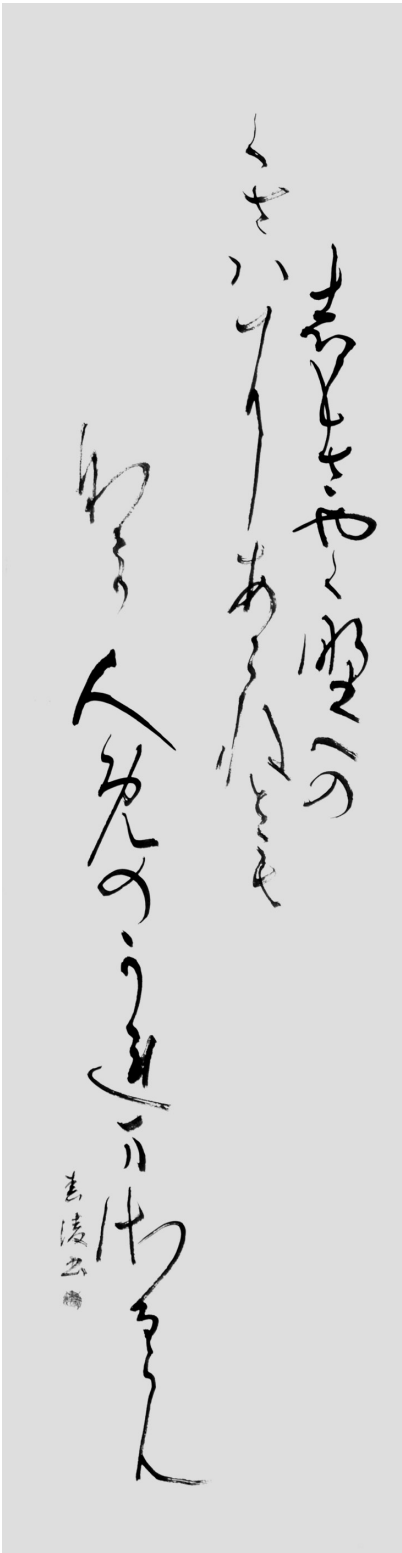
条　幅　部　随　意　参　考

笹崎久汀先生書

淡月窺人敲句（朱泣）
淡月人の句を敲くを窺う。

訳…うっすらとした月は人が句を推敲するのを照している。

武井春凌先生書

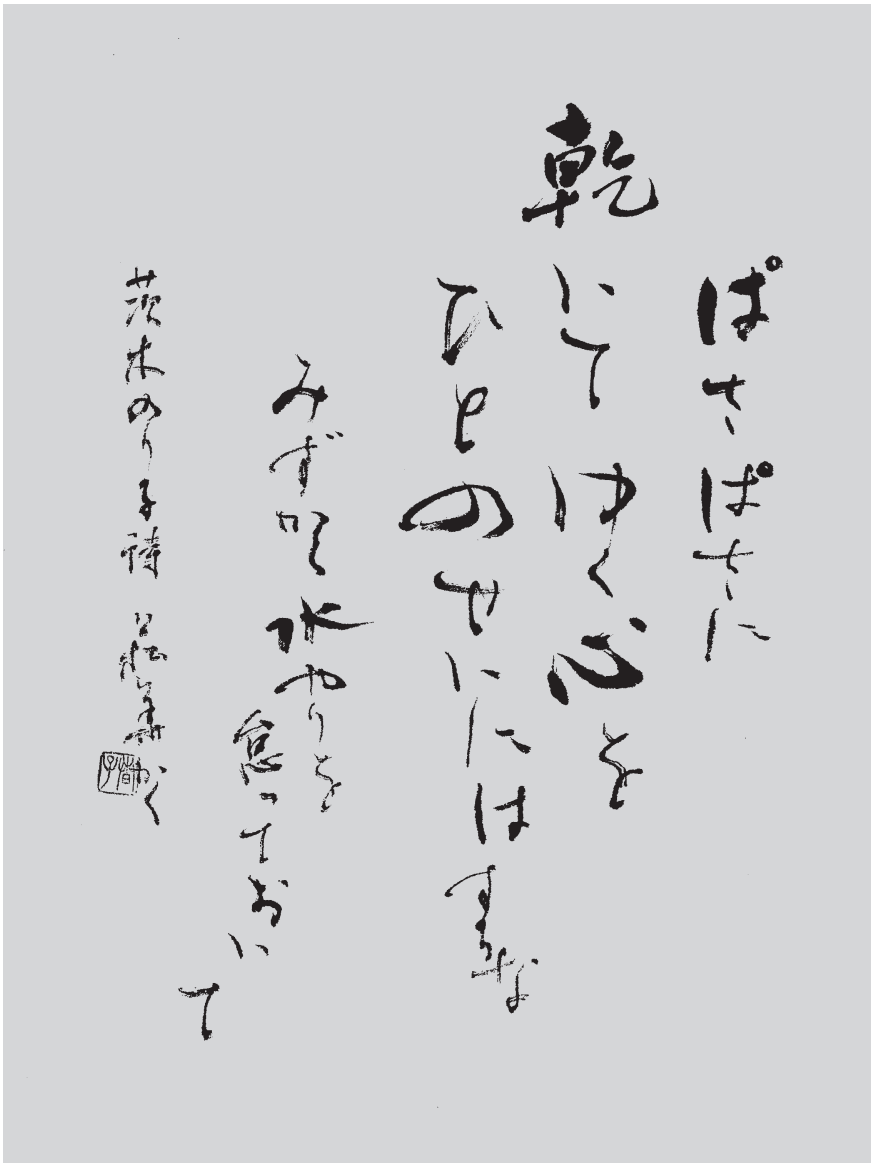


霜さやぐ野辺の草葉にあらねどもなどか人目のかれまさるらん（新古今和歌集　延喜御歌）
志もさや久野へのくさ八耳あらねと毛那と可人免の可連万佐るらん

◆注 意　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を〇で囲み（1）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条随を〇で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

小暮茲華先生書

茨木のり子の詩には、共感を覚える事が多い。それをどう表現するか。構成、字形など今まで培ってきた力を発揮して、精一杯工夫して下さい。筆、墨、紙も考慮して。大小、痩肥の変化に特に留意。

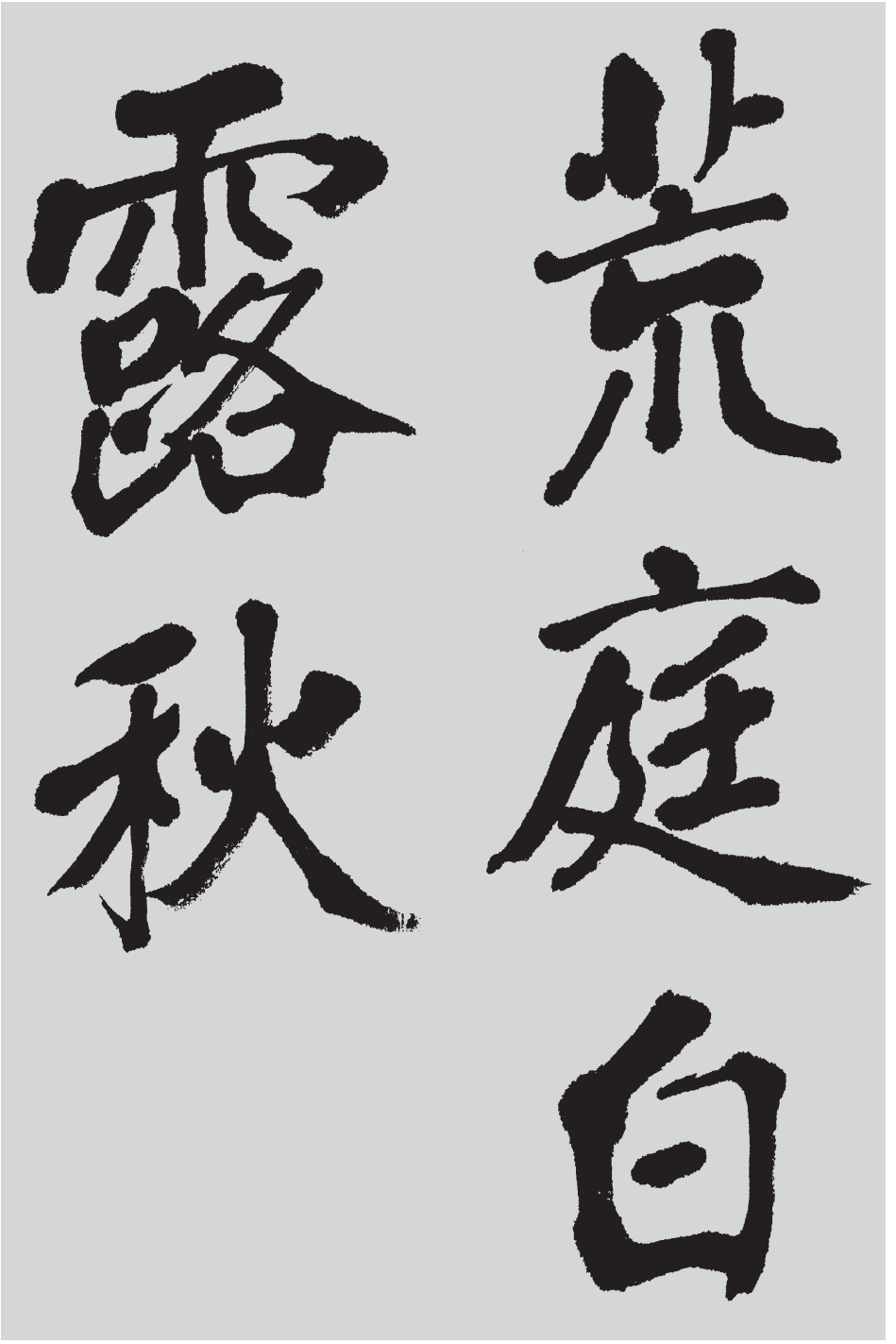


ぱさぱさに乾いてゆく心を
ひとのせいにはするな
みずから水やりを怠っておいて
「自分の感受性くらい」より抜粋
茨木のり子

茨木のり子（一九二六年～二〇〇六年）大阪生まれ。本名は三浦のり子。戦後を代表する女性詩人。エッセイスト、童話作家、脚本家。『櫂（同人誌）』創刊に川崎洋と共に携わる。櫂同人に谷川俊太郎、舟岡遊治郎、吉野弘など、詩人多数。

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。
①バーコード券右空欄に漢かと記入　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

漢　字　部　課　題　参　考　（十一月二十二日締切）



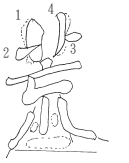
平岡華雪先生書

荒庭白露秋（張説）

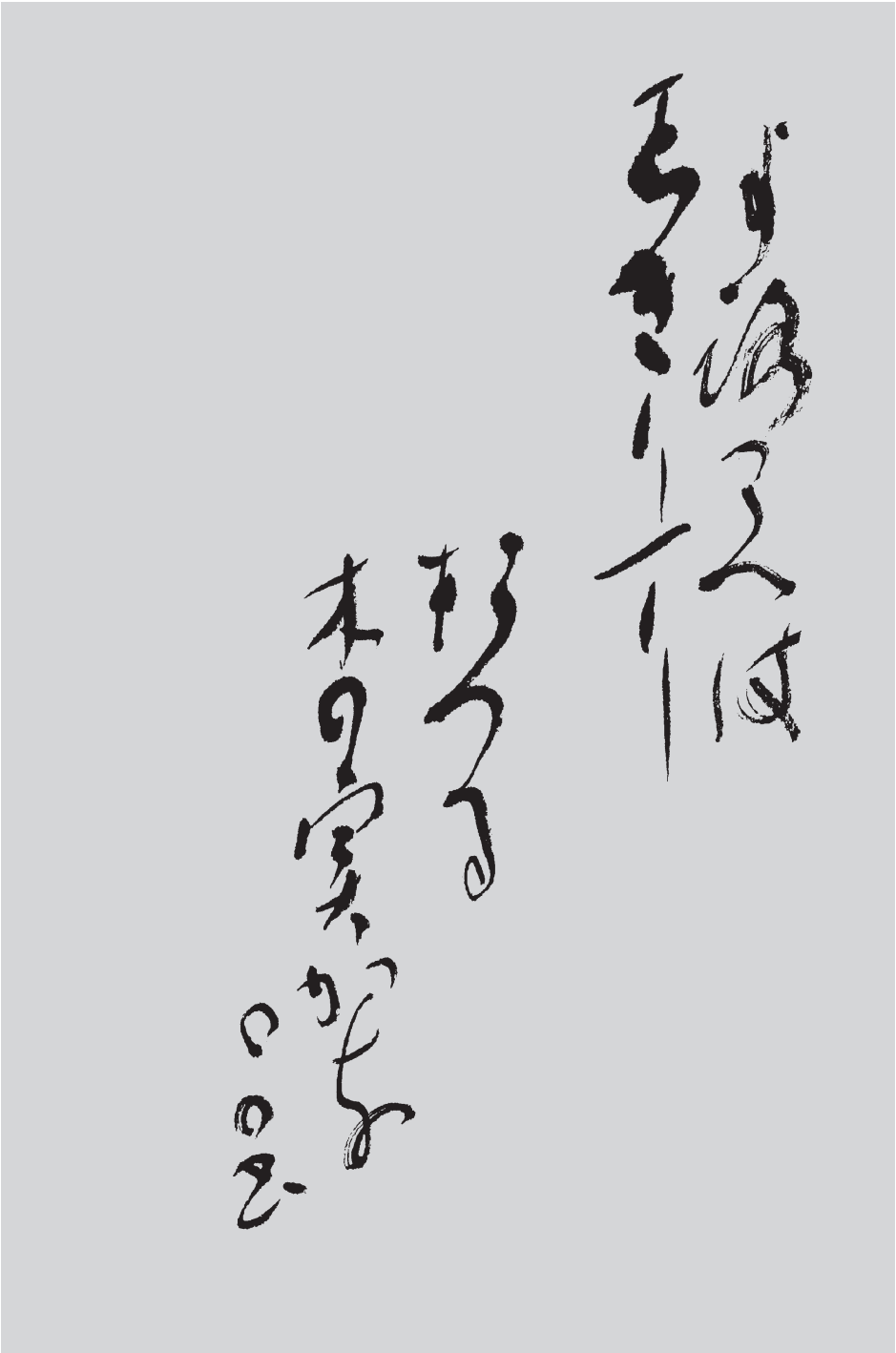
訳…荒れた庭に白露深い秋となった。

〈接しなく、のびやか〉

「右払い」は各文字の主画、のびやかに、すっきりと表出したい。ただ、「庭」と「秋」は左右の払いが接しないよう留意しつつ、〝のびやか〟に―。この収め方が大切。



◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（３×４㎝位）に次の４項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。
①漢字部　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新会員は無料。



平岡華雪先生書

よろこべばしきりに落つる木の実かな（風生）

よ路こへは志きり耳於つる木の実か奈

〈鑑賞から筆意を〉

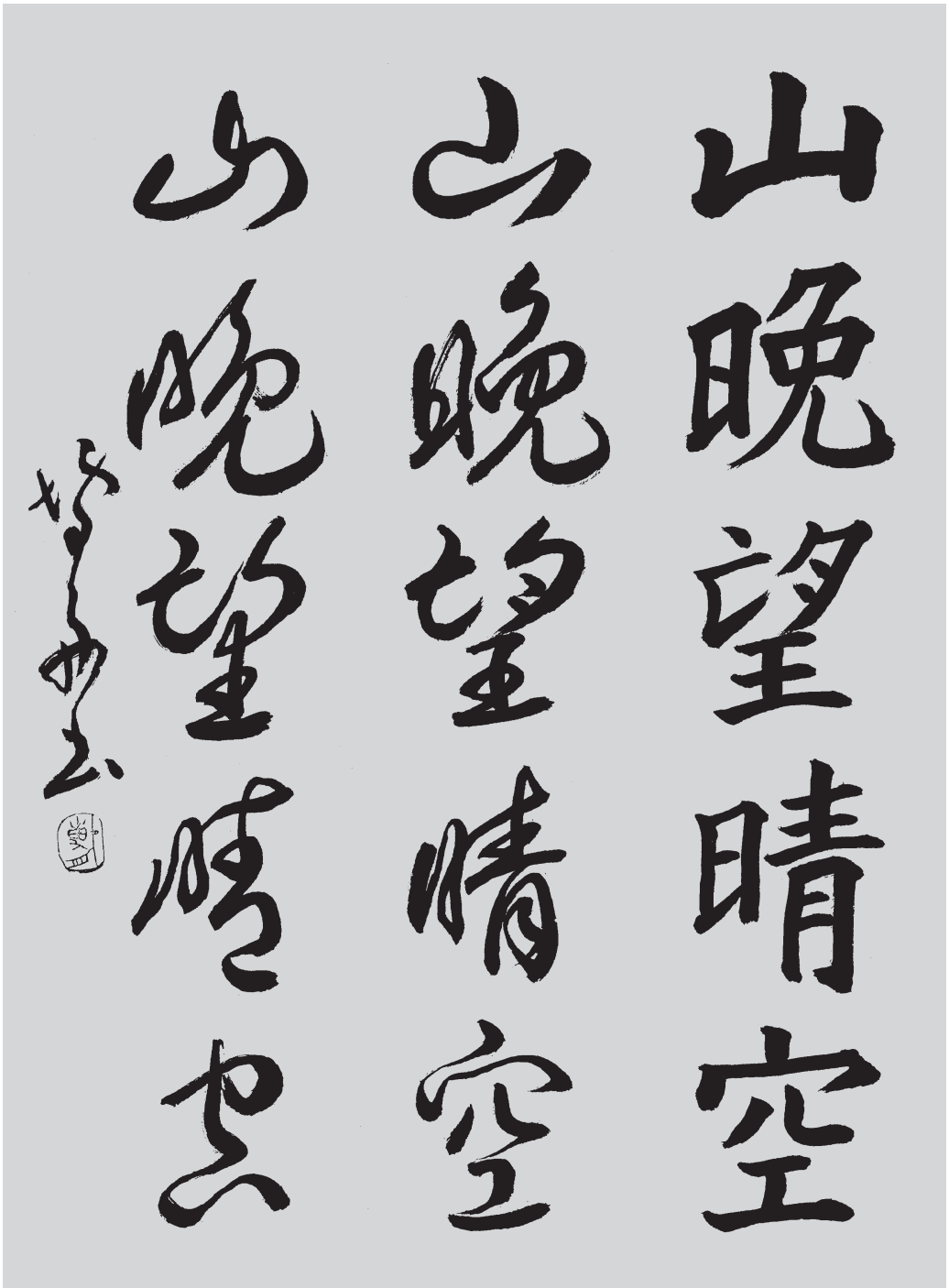
二群構成で一般的のようですが、先生独特の妙味が表出されています。細部については、「路」「実」の第一点は打つのではなく〝置く〟という気持ちが大切。左群の「木の実かな」は特に、流れのリズムを学んでほしい。「な」を「か」の空間に突き入れ、一画と末画の筆意の対比がよく表出されています。

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。
①かな部　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新会員は無料。

楷、行、草、三　体　参　考

北沢博舟先生書

山晩望晴空（李白）
山晩れて晴空を望む

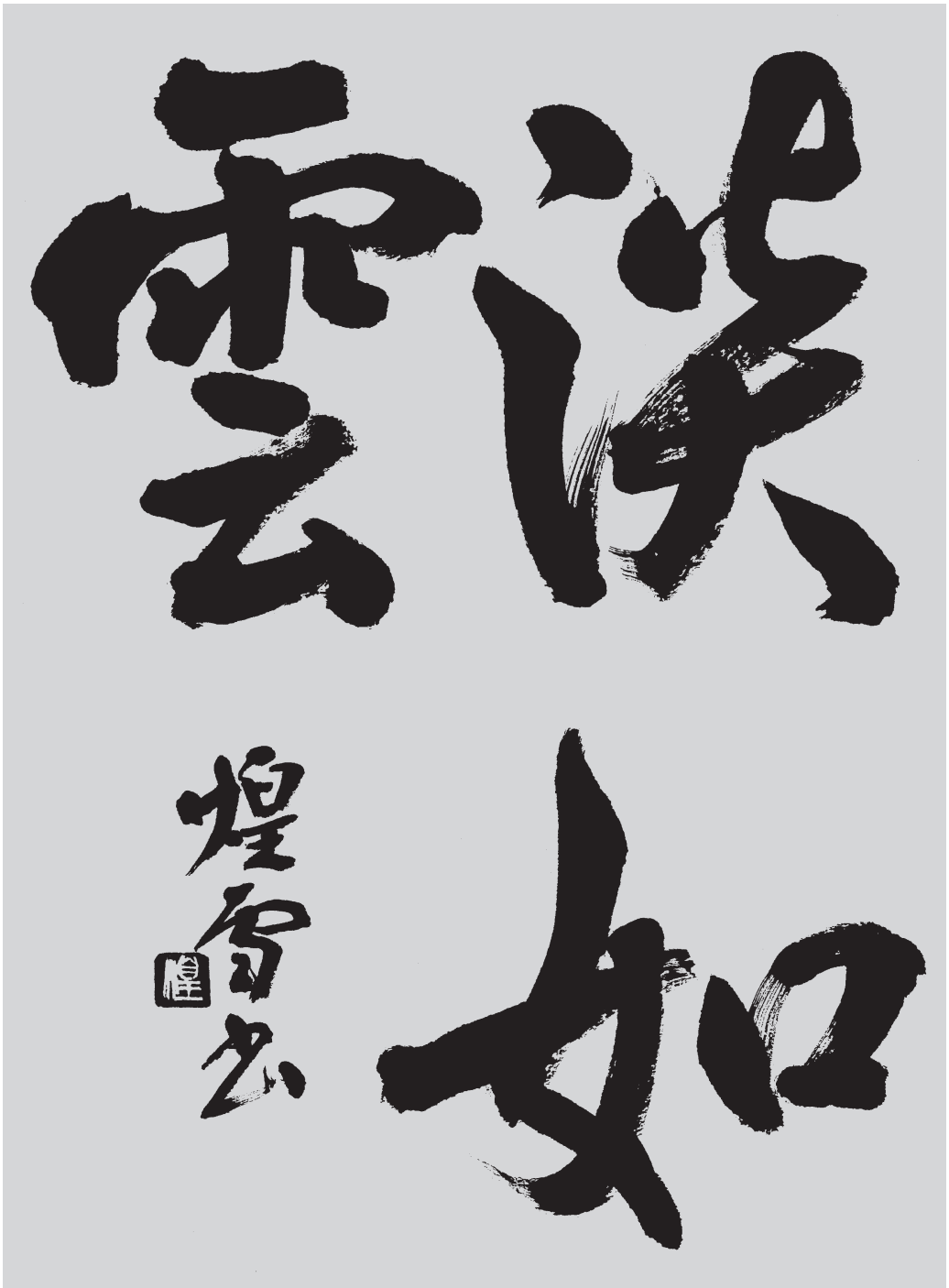


訳…山々の暮れゆくころ、晴れわたった大空を眺めわたす。

1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は430円。

随　意　部　参　考

訳…物事に執着しないのにいう。

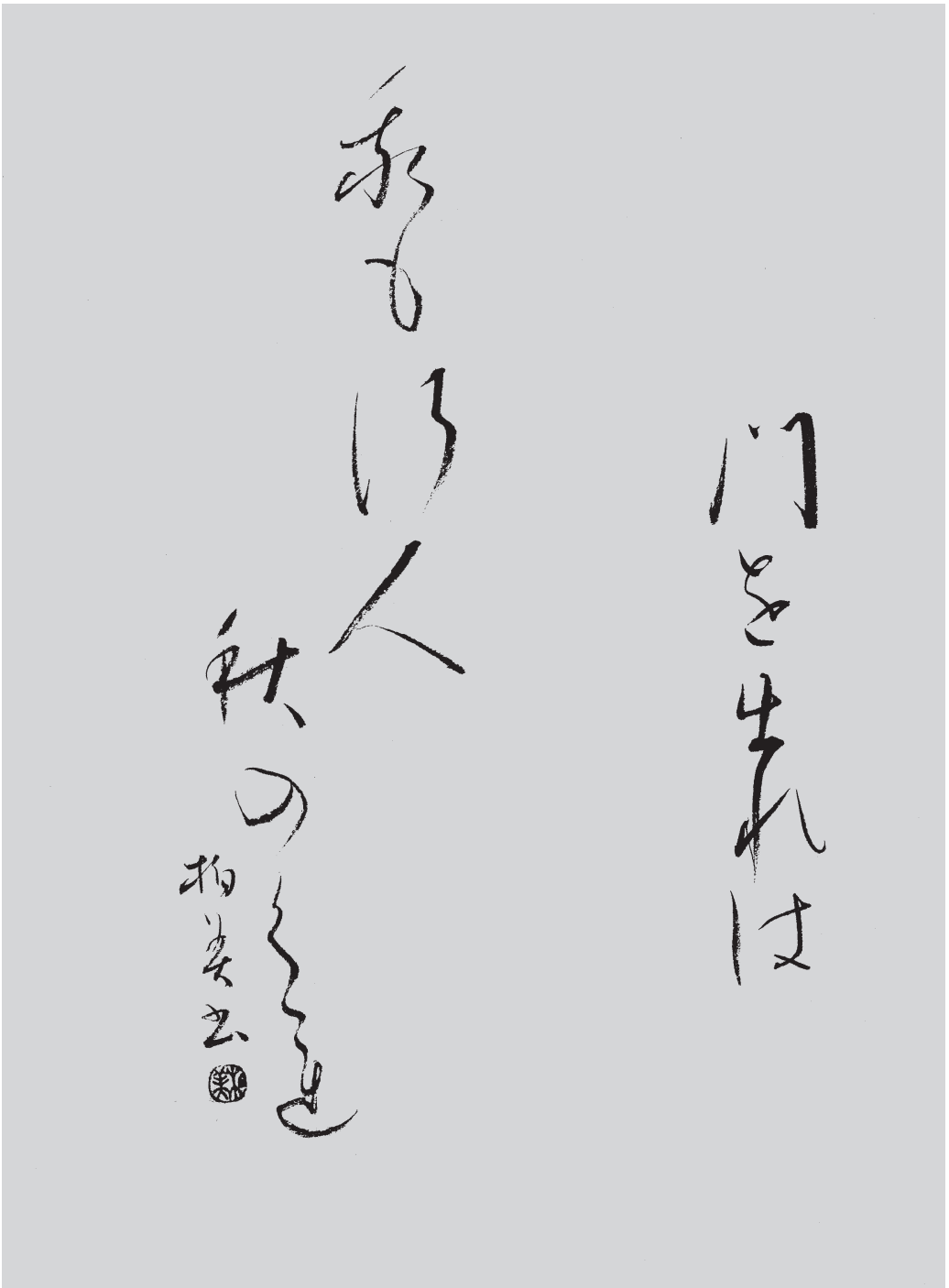


星野煌雪先生書

淡如雲（杜牧）
淡（あわ）きこと雲（くも）の如（ごと）し。

1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は430円

随　意　部　参　考



石島柏美先生書

門を出れば我も行人秋のくれ（蕪村）

門を出れは我も行人秋の久連

1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は430円

硬筆部昇試課題参考　（十一月二十二日締切）

湯澤春翠先生書

課題 2（初段格以下）

谷を縫い山を抜け湿ってひんやりとした
寺へと、鎌倉の道はひとを導く。
日が暮れようとしている。

路川千曄先生書

課題 1（初段以上）

赤々と障子に映る燈火を見た
時の私たちの喜びは譬えようも
なかった。私たちは漸くのことで
清水の山小屋に辿り着いた。

正教授　創作部門（自運作品、自由形式、硬筆用紙使用）で出品。審査料一、〇〇〇円

課題1（初段以上）

赤々と障子に映る燈火を見た時の私たちの喜びは譬えようもなかった。私たちは漸くのことで清水の山小屋に辿り着いた。

「千曲川のスケッチ」　島崎藤村

◆注意

(1) 自分の段級に合った課題を選択。
(2) ペンまたはボールペン（黒色）を使用のこと。青インクは不可。
(3) 段級欄は本人が記入（色は黒）はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位に）次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
(4) 会員は無料・会員外は四三〇円
(5) 昇試規定は裏表紙参照の事。

課題2（初段格以下）

谷を縫い山を抜け湿ってひんやりとした寺へと、鎌倉の道はひとを導く。日が暮れようとしている。

「あるようなないような」　川上弘美